

19/4/8 河村たかし名古屋市長定例記者会見 名古屋城関係分
(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

記者:名古屋城の関係ですが、文化庁に行くのはいつ頃になりそうですか。

河村市長:まあなるべく近いところで、文化庁長官、殿の様のアポを取るところです。
やっぱりここまでやってまいりましたので、やっぱり市民の皆さんのお金で言うと3億2000万の10円の小学校の募金も入るとるわけですよ。小学生の。
これはやっぱり総責任者として、うけとっていただく方の責任者として文化庁長官に渡さないかんでしょう。まあ近いうちになるべく近いうちに行きますけど。今ちょっと調整中です。

記者:今週中もあり得る?

河村:そりゃ、あの長官がよければ。行くと思います。

記者:それとあの先日あの、「できんかったら関係者みんな切腹」だというような発言もありましたけど、あらためて市民に説明を

河村市長:まあ必死でやれということです。言い換えれば必死でやれということです。
必死というのは必ず死にます。必死って必ず死ぬって書くでしょう?
お城だで切腹と。死ぬ気で頑張りやあというのが。
それくらいの責任がありますよということです。ぐらいの。

記者:辞める辞めないというとかそういう意味ではないのか

河村市長:それは関係ない。

記者:関係ない、、、

河村市長:こういう問題じゃない。それより重いです。それよりも重い。辞任して済むような問題ではない。ということです。

記者:辞任はもう前提ということですか

河村:前提かどうか知らんけど。それよりは本人いないですよ。ここまで引っ張ってましたから。4年ぐらい前から何年かしらの書類がありますけど。手に入ると思うけど。

技術提案・交渉方式を採用するときに、河村さん一筆書いてくれっていうもんだで、技術提案・交渉方式を採用する。それについては全責任は市長河村たかしがとるって。一筆かいてありますから。役所に対して、これ。役所の要望を受けて、ここまで書かないかんのかって言ったら、書いてくれっていうもんだで。ええ。本当に。本当ですよ。これ。あると思いますね。だったら国会でされとると聞いたことがあるねこれ。ネットか。ネットで公開されてるか知らんけど、あの情報公開請求したら出すんじゃないですか。ええ。

記者:全責任を取るっていうのは、その例えば今回の文化審議会の結果を踏まえてということなんですか。

河村市長:いやきちっと主張ができるようにということです。木造の再建ができるように

記者:5月の文化審議会で仮に認めなかった場合は責任とるんですか

河村市長:そんなことあり得ないでしょう。しかし。なんでそうなるんですか。こんだけ丁寧にやってきてるのに。これ。文化庁にも技術提案・交渉方式でやりますよと、ああどうぞと、いってそのかわり、丁寧に説明してくださいよいって、ずっとやってきてこうですこうですと。竹中案はこうですと。

あんたらももってたと思いますけど、こうです。ああ竹中案で素晴らしいですねといってですね、そういう話もあり、これ。でずっとやってきて、で、いかにということになるとどうなるのこれ。

記者:遅れますよね。

河村市長:遅れる言っただって、だいたい遅れると1億、木材の保管料、ほれからなんですか。天守閣の入場1年禁止してますから、あれだっけすごい損害ですよ。

たまたまね、本丸御殿がオープンしとるもんで、220万にものすごい、きてもらっどと。それからもう一つ、何遍も言うけど、大問題はもう調査できんですよ。

だいたい、だいたいは3月で終わりましたけど。危ないですから。

労働安全衛生法というのがあって、危ない工事を承知で危ないことをやらせると、それは刑事罰になる。業務上過失致死じゃない。

別個の罪になります。これはなりますね。間違いなくこんだけいっどとるから。

ただ、物事壊す建物の近くに寄ったりすることができませんけれども、これあの取り壊しはわかっている場合はまた別なんですね。これ。

だで、外側は悪いけど、内側なんかこれできんでしょう。これ。

再びなんか地震なんて起こりやせんって勝手に思っどとるわけでしょ。

現に起こってませんわね地震は。入場禁止してから1年経っても、はい。

そんな毎日毎日東海南海トラフでいって、毎日毎日やっとなってこれ、現に、名古屋市の中公設の建物は取り壊しましたから。

あれはIs値、0.12か3だったと思う。名古屋城よりちょこっと悪かった。

取り壊してないですからね。はい。どうなんですかそれ。これ。どうなるんですか本当に。

これいったい。これまず1年間入場禁止にするだけでも、えらいことですよこれ。

こんな異常な事態は。

地方自治法違反なと思いますね僕は。地方自治法一条の2か2条の2かに、地方自治体は最初の経費で最大の効果を上げなければならないという規定があるです。これは国はないですけどね。ね。

やっぱり入城者にようけてもらって、ちょっとでも税収をあげなさいよと税金に繋がる行為を
しなさいよとと法律に規定されてますからね。それなのに違反でしょこれ。ほんなの。そう思
いますよ。これ。大変なことですよ本当に。

記者:市長さっきおっしゃった、「全責任は市長がとる」という指示書があると思うんですけど。

河村市長:はい。

記者:その指示書の効力はまだいきている

河村市長:それはいきとるでしょう。期限は書いてませんと思う。

記者:そうなると、先週おっしゃった「関係者全員切腹」という話と矛盾するんじゃないですか。

河村市長:なんで全然矛盾しませんよ。

記者:1人で責任とるっておっしゃったのに、「私一人じゃ切腹しません」とおっしゃったじゃない
ですか。

河村:一人で責任をとるとは書いてありませんよ。「私が取ります」と書いてある。

記者:1人がとるってということじゃなくて、私も取る。

河村市長:私がとるんだけど、それは関係あった人はそれは責任もんでしょう。それは責任も
んでしょうそれは。

記者:わかりました

河村市長:それは死ぬ気でやる気ぐらいのことだよと。必死でと。いうことですよ。
必死で言い換えてもいいですけど、納得がいかなら。必死でやらないかんということと、ようにてますよ。必ず死ぬと書きますから。必死は。そうでしょう。
必死でやってちょういう。
そのぐらいの気持ちにならないかんのじゃないの。本当に。今までやってきたこと思えば。これ。
それと大きいのは文化庁にことあることに行ってますけど、やっぱどえりゃああつい市民の期待がありますよと。本当に。それは大きいですよ。選挙のことはここではないかもしれませんが、そういう期待もあったと思いますよ。もうつくってちょういうって、まあ年食った人なんか本当に生きてるうちにあの作ってちょういうって、上がりたいで、よおけいいますよ本当に。
名古屋市の市民にとってのかけがえのない宝物ですから。木造天守っていうのは国宝1号。ねえ。そう思いますけどねわし。

横井さんのインタビューもこの前横井さんの話もあった、横井庄一さん、横井庄一さんがでてござって、そのときのだったと思います。その後、ちょっと。
横井さんに名古屋のお城をどうですか言ったら、「昔の本物がいいわな」言って。というてにをははちょっと申し訳ないです。そういう趣旨の発言をされてますよ。ええ。
それほどまでに。
某新聞のアンケートでは昭和23年でも、木造の方が、ね。

記者:すいません。

河村市長:今の本丸御殿もあれだけ入ってござるんだで、木造天守できたらえらいことですよ。これは本当に。
日本の木造技術のそちらの見方をすごいと言った人がいます。
そんなことができるんだって日本は、戦争で焼けてまった世界最大の木造建築物をもう一回復元して、再現したのか。

記者:市長、名古屋城の石垣部会の先生がたが反対してる解体を、文化庁が解体そのものは別に石垣部会の了解をとれという指示じゃないと伺ってますけれども、専門家が反対しているものを押して文化庁が解体許可を出すということって何かちょっと難しいような気もするんですけど。

市長:反対はしとらんでしょ。別に。解体は文化庁がお決めになることですわなあと。とひとつらせるだけじゃないですか、そういつてらっせるだけでしょ、公式には。

記者:やり方については反対してましたよ。工法については

市長:反対じゃない。こういう方法もある、こういう方法もある。と引っさらせるだけでしょ。

記者:今、市がやりたいという方法についてはこれは認められないというような言い方をされてたとおもいますが。

市長:いやそれはそういう部分はそうかもしれませんが全体の石垣を天守を解体してええかどうかについてはよう議論しとらんと思いますよ。ええちゃんと正確に読みますと「それは文化庁がお決めになることだ」と

記者:反対というか、批判的にというか。

市長:批判はいろいろされますわな。そんな当然のことながら。そりゃいろんな工法が考えられるし。それ完璧にパーフェクトというものはなかなか難しいですよ。石垣は、そもそも。一番最後に「総合的にさらに調査する」と、てにをはには別だけど。一番最後の結論は総合的にさらに調査する。だからそれもします。それもやりますけど、調査するためには上を解体したほうがやりやすいにきまっている。誰が考えたって。それ。危ないしまあ。

記者:なんとなくそのちょっと遺恨が残るといふか、その文化庁側からしてもその石垣部会の批判がある中でその許可を断行したみたいな形になるというのは今後どうなるのかなあというように思っちゃうんですけど。

市長:まあどうですかね。だけど他の方法がなかったでしょう。ええ。

誠実にやってきて、石垣部会さんも技術提案・交渉方式をとるといふのは当然わかつたんですから。そもそも、これは。

名古屋市の部会ですから。あれ。当然わかつた。

あの竹中案と安藤・ハザマ案がでて、それは、それでやっていくといふのはやってみてそのままという意味じゃなけど。全部そのままという意味じゃないけど、その中でいろいろなね、丁寧な、まあどういふんですか改良を加えるといふのは当然ええことだけど、

他にはなかったわけじゃないですか。これほど丁寧にやるといふのは。本当に。

文化庁の、文化庁の言うとおりにやってきた。はっきり言えばと。ずーっと今まで。これ。ということですわ。

文化庁さんの言う通りにやってきた、法律に従って、これも丁寧が上に丁寧に。

こないだもいいましたけど石垣の専門業者の社長にいわせると、直接話しましたけど、こんな丁寧に行ったの初めてです。凄いですよ。言ってますもん。本当に。

今度の解体についても竹中工務店さんは、世界 1 位といってもええかといったら世界 1 位かはどうかは知らんけれど、もの凄いい案ですよといってくれてもいいですよ。いってますよねこれ。

見果てぬ夢を追求しろというのはいかにでしょう。それは文化庁にも言っておりますが。

見果てぬ夢をみろといっちはいかにわね。それは。

まあ地震で壊れますし、そもそもお金はどうなるんですか市民の税金を使っていくんだけど。

そうでしょ。それはいけませんよ。

プラン A が今の竹中工務店に基づくそのさらに改良した案で丁寧やってあるけど、プラン B が別にちゃんとあつての問題ですから既にプラン A でやると決めてますからね。

プラン B というのがはっきりしたものがないじゃないですか。

悪いけどこれ。こんな事で進めれなかったらこの間も文化庁に行ったときに「文化庁のためにやっとなるものじゃないのか」と。これ。

この歴史的建造物の復元という。ね。お城がどんどんずっと続くわけですよ。

戦後 12 だったかな。あの燃えてしまってコンクリート復元した、そのほかのコンクリート復元にした城もあるけど、そういう時にやっぱり文化庁がわざわざ基準を定めた歴史的建造物の復元というジャンルのことを進めていくということをやってくということをするような文化庁の仕組みを応援することですよ。はっきりいって、これ。ほうでしょ。じゃないの。

石垣どんどこんどこんこやったら最低 10 年 20 年という説ありますよ。これ。

説ですよ。決まったことがない。

10 年 20 年後となると天守が耐震強度もたんから、耐震改修することになりますよ。

壊していかにというなら、耐震改修しますと、前の見積もりで 30 億。

だいたい 50 年。コンクリートね。一般的に。あれは一般的ですから。

まあコンクリートのいろいろな中性化防止とかでいろいろなものでもっと持つという説ありますよ。木造はもう一切見れませんわね。

日本からそういう本来的な木造の城というのは、せつかく図面があっても、日本の歴史の中から消滅するということです。そりやおかしいでしょ。ほりや。

日本の文化財行政からしておかしいと思う。これ。

文化庁を応援しとるんですよ。わしは。

こういう方式でこうやってやって行けば、復元ということが出来ますよと。

1000 年残す文化財というものが出来ますよということですよ。これ。

記者:わかりました。多分一言おっしゃりたいことがあるとおもんですが

河村:なんでや

記者:後半があるんで。よろしいでしょうか。

河村:あんまりいっとってもいかに。